

文教常任委員会資料

令和3年10月21日

(2021年)

教育委員会事務局学校教育課

令和3年度京都府学力診断テストの結果について

標記の件について、次のとおり報告します。

令和3年度京都府学力診断テスト（小学4年・中学1年）の結果について

1 京都府学力診断テスト（小学4年・中学1年）の目的

京都府教育委員会では、児童・生徒の学力を把握・分析し、指導上の課題を明らかにするとともに、学校における個に応じたきめ細かな指導方法の工夫や改善の充実に役立てるため、京都府学力診断テストを実施する。

2 概要

(1) 実施日時：令和3年4月9日（金）～4月14日（水）

(2) 実施対象

ア 小学校 199校（うち公立小学校数 198校）

イ 中学校 98校（うち公立中学校数 92校）

(3) 実施教科及び受検者数

ア 小学校 国語 9,344人 算数 9,342人

イ 中学校 国語 9,315人 数学 9,312人

(4) 問題内容及び問題数

ア 国語、算数・数学各25問

- ・ 基礎・基本に関する問題・・・20問
- ・ 活用に関する問題・・・5問

イ 質問紙調査・・・小学校48 中学校49問

3 結果の活用

- (1) 城陽市学力向上等推進委員会専門部会にて「正答率別推移」の作成方法や活用方法、「家庭学習」のあり方について研鑽を深める。
- (2) 城陽市教育委員会では、今回の結果とこれまでの結果を併せて成果と課題を明確にし、結果の活用による指導の改善・充実にに向けた取組を進めていく。

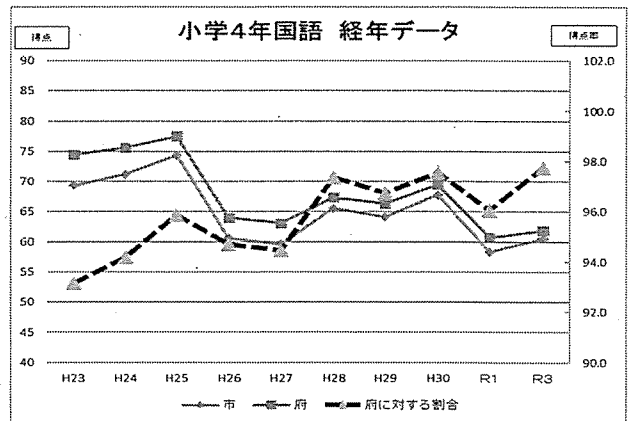
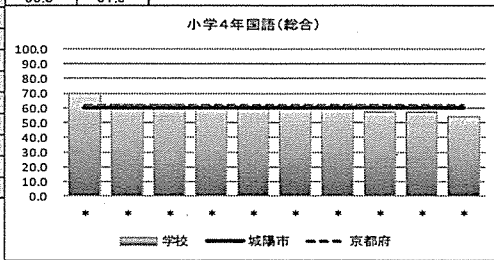
4 各教科の結果

(1) 国語／小学4年

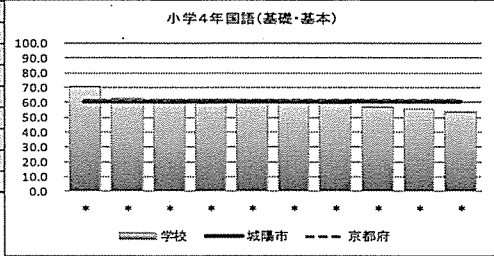
- ・城陽市と府全体を比較すると、令和元年度は2.4ポイント下回っており、令和3年度は1.4ポイント下回っています。近年をしてみると城陽市の平均としては上昇傾向にあります。
- ・相対度数分布からは、城陽市と府全体を比較すると大きくは変わりませんが、中低層の割合が多くなっています。学校間による違いも多様であることから、平均点に限らず設問別や質問紙とのクロス集計や散布図、正答率別推移などから多面的に実態把握をする必要があります。
- ・国語の授業では、授業中に子ども一人一人の主体的な言語活動（読む・書く・話す・聞く）が充実するよう、各校の国語科の組織的な授業改善を行う必要があります。

ア 結果の状況

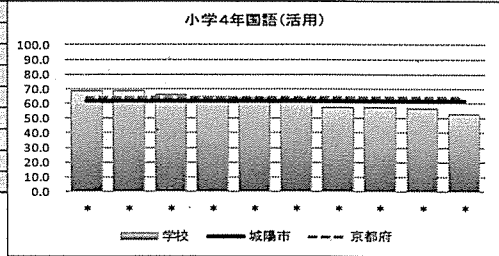
小学4年国語(総合)			
学校名	総合	市全体	府全体
*	69.9	60.5	61.9
*	62.8		
*	62.8		
*	61.1		
*	61.1		
*	59.1		
*	59.1		
*	57.5		
*	57.4		
*	54.1		



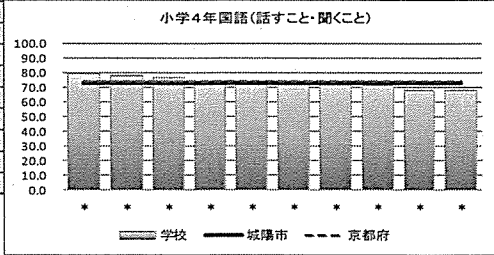
小学4年国語(基礎・基本)			
学校名	基礎・基本	市全体	府全体
*	70.2	60.2	61.4
*	62.7		
*	62.3		
*	62.0		
*	60.4		
*	59.5		
*	58.6		
*	56.8		
*	55.6		
*	53.4		



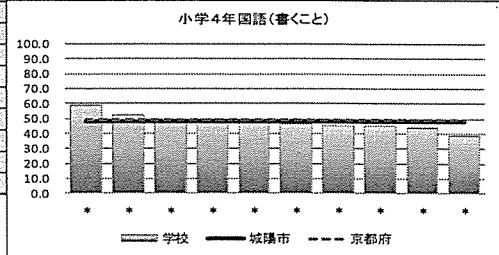
小学4年国語(活用)			
学校名	活用	市全体	府全体
*	68.6	61.8	64.0
*	68.6		
*	66.0		
*	64.8		
*	64.1		
*	63.0		
*	57.3		
*	57.2		
*	56.4		
*	52.8		



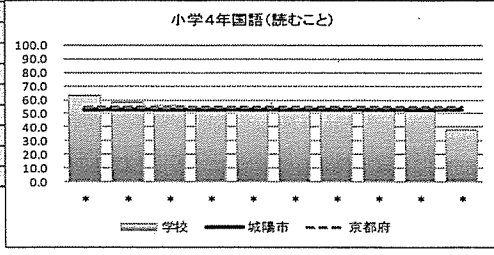
小学4年国語(話す・聞く)			
学校名	話す・聞く	市全体	府全体
*	79.0	73.3	74.3
*	77.8		
*	76.8		
*	73.8		
*	73.4		
*	72.1		
*	71.8		
*	71.4		
*	67.9		
*	67.8		



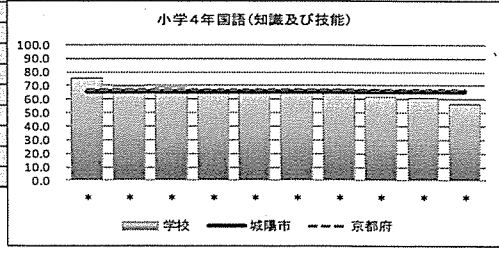
小学4年国語(書く)			
学校名	書く	市全体	府全体
*	58.6	48.0	49.4
*	52.2		
*	49.9		
*	49.6		
*	47.9		
*	46.8		
*	45.4		
*	45.1		
*	43.6		
*	38.8		



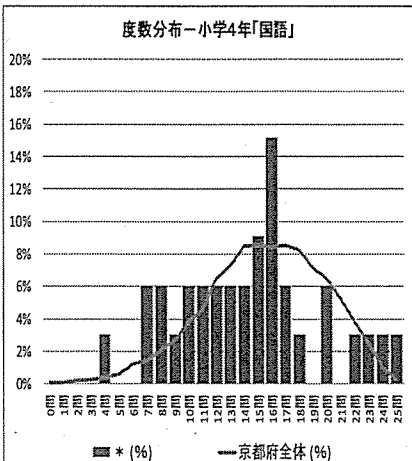
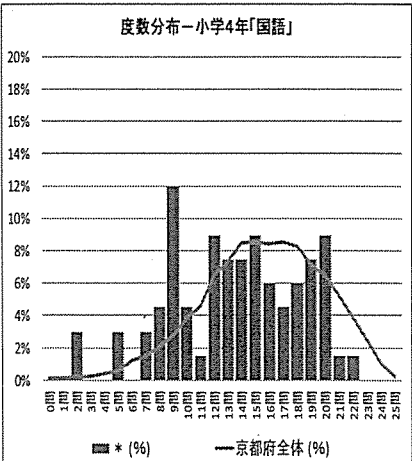
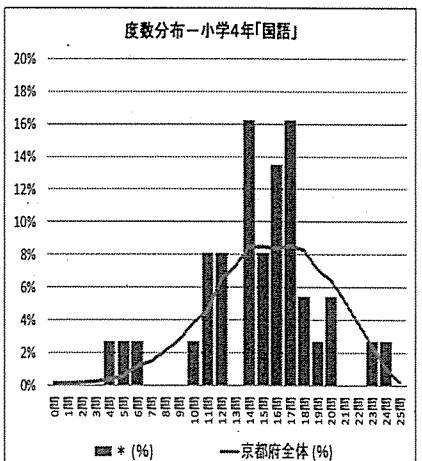
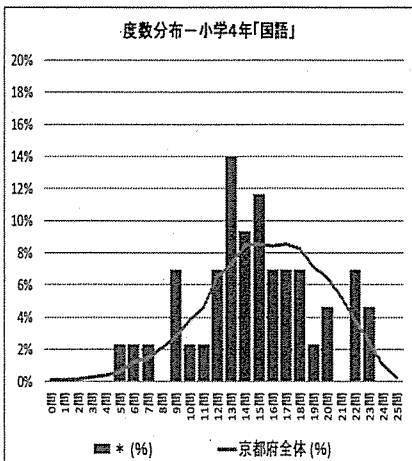
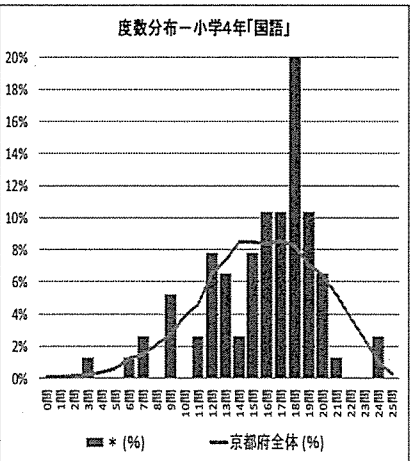
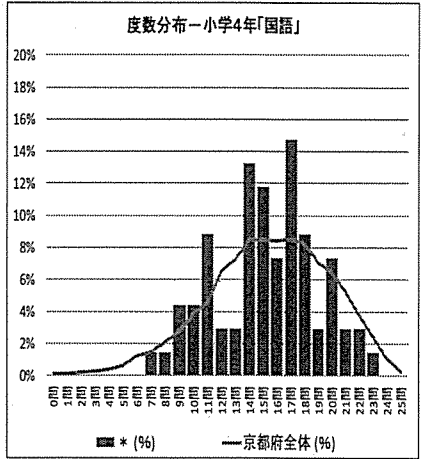
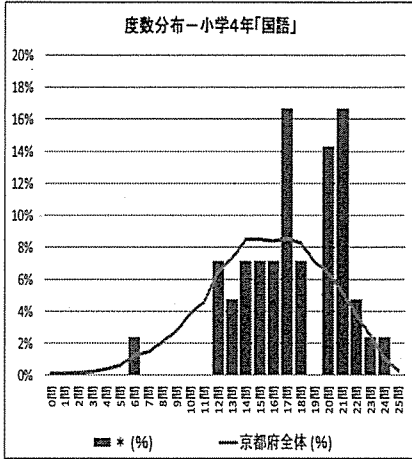
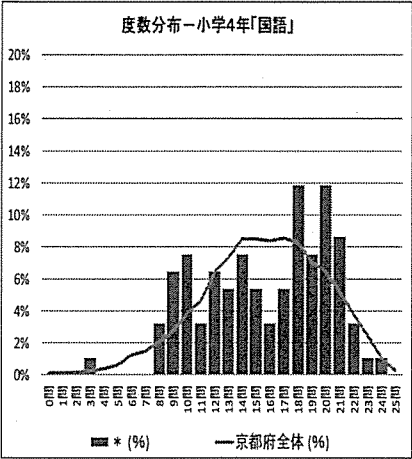
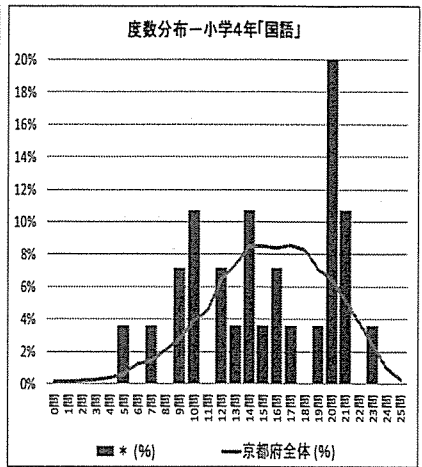
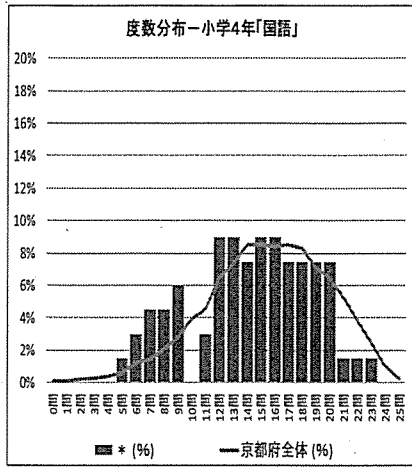
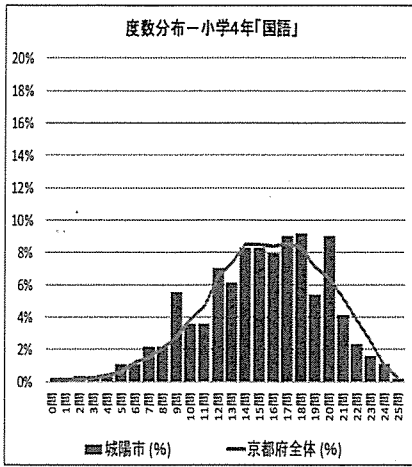
小学4年国語(読む)			
学校名	読む	市全体	府全体
*	83.5	52.5	54.5
*	58.2		
*	56.4		
*	54.0		
*	51.9		
*	51.8		
*	51.8		
*	51.5		
*	51.4		
*	38.1		



小学4年国語(知識・技能)			
学校名	知識・技能	市全体	府全体
*	75.4	65.6	67.0
*	69.7		
*	69.0		
*	66.3		
*	65.8		
*	65.7		
*	64.3		
*	61.6		
*	61.3		
*	56.9		



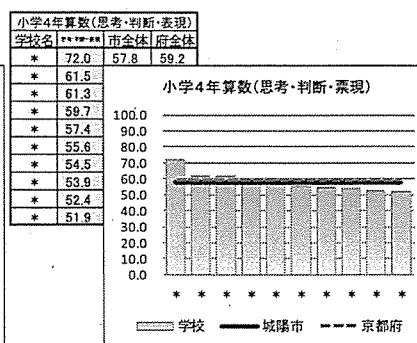
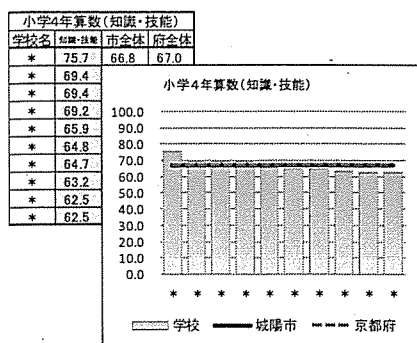
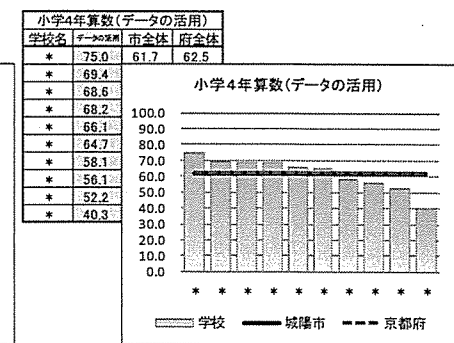
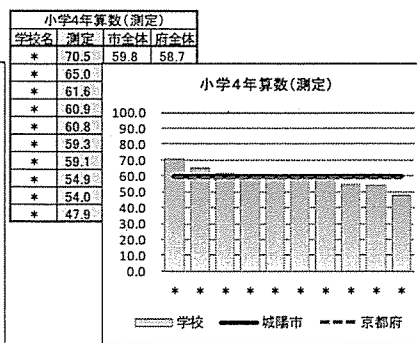
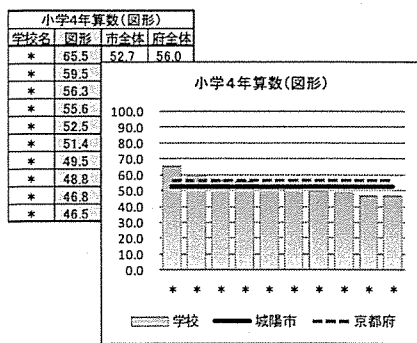
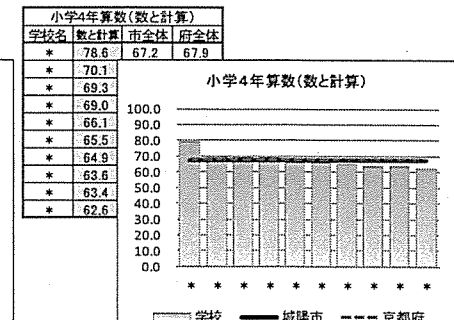
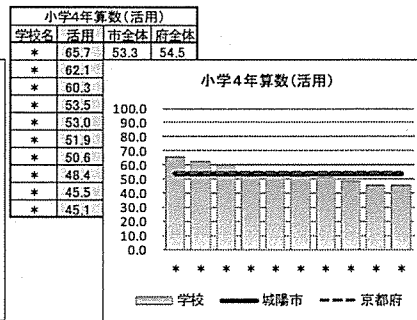
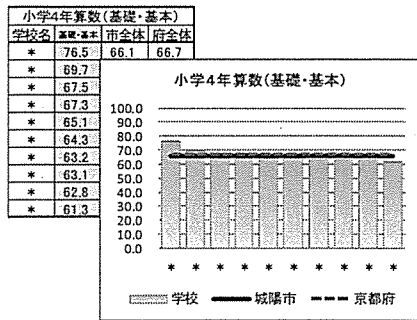
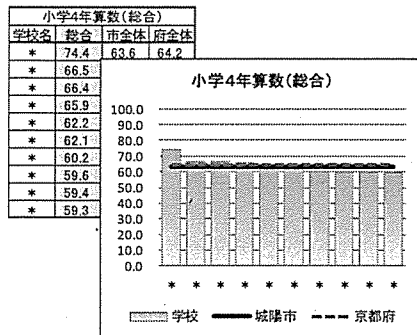
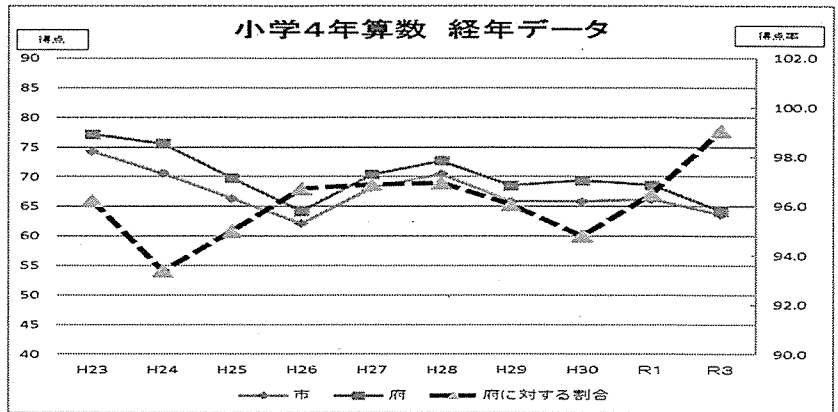
イ 相对度数分布



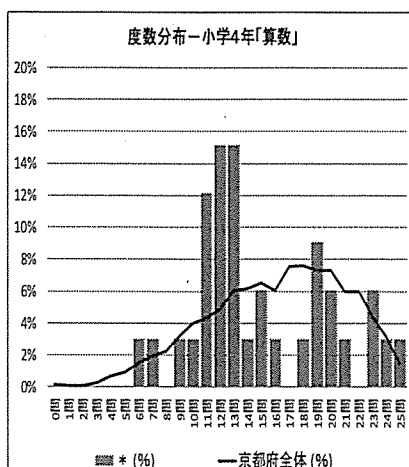
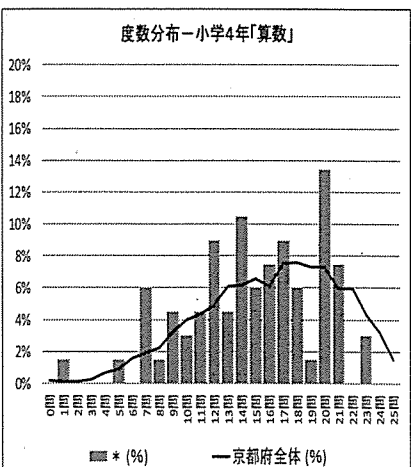
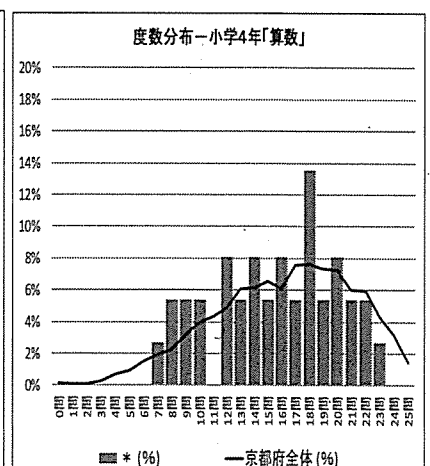
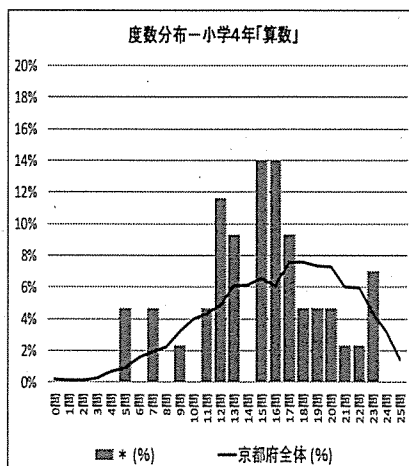
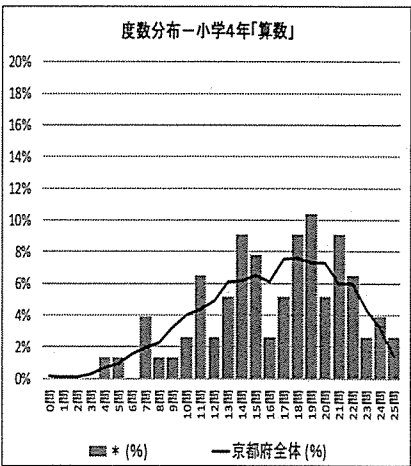
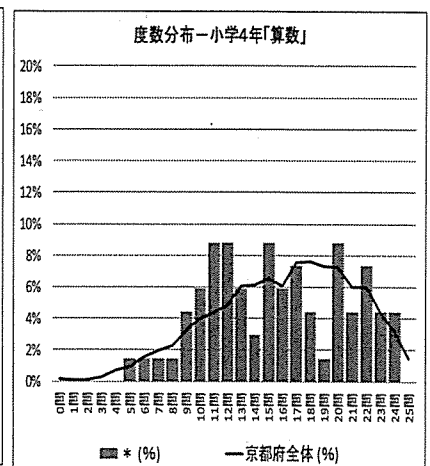
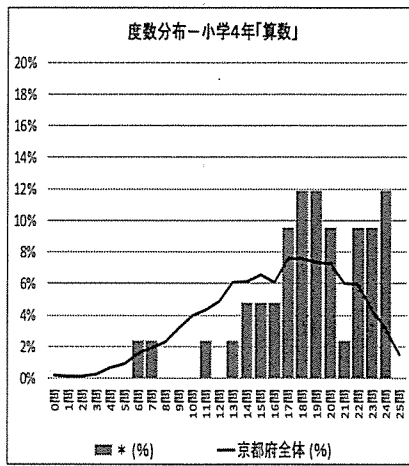
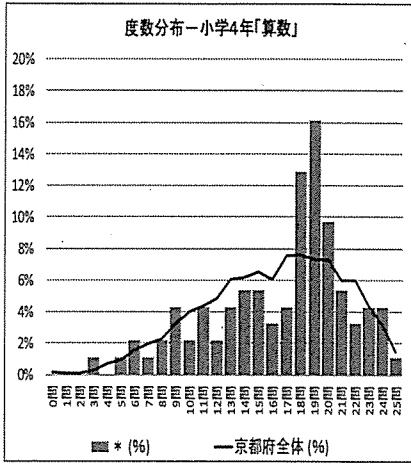
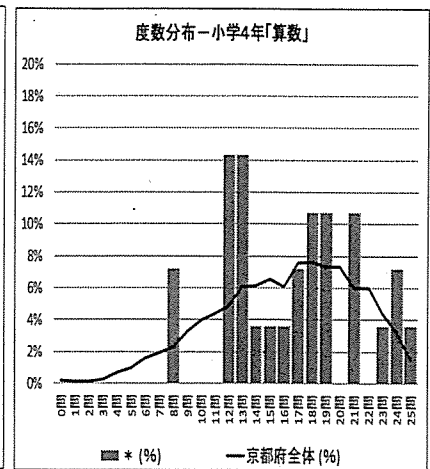
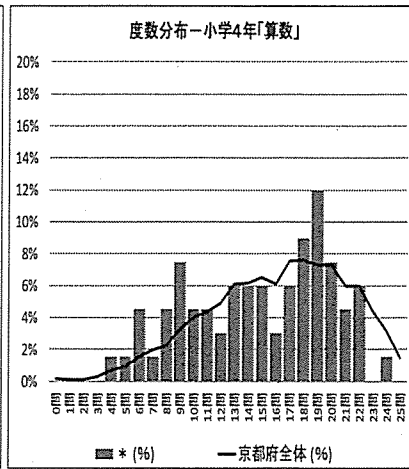
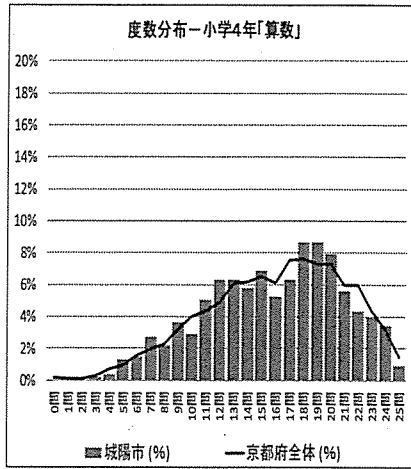
(2) 算数/小学4年

- ・城陽市と府全体を比較すると、令和元年度は2.4ポイント下回っており、令和3年度は0.6ポイント下回っています。近年をしてみると城陽市の平均としては上昇傾向にあります。
- ・児童一人一人が、主体的に『数学的な見方・考え方』を十分に働かせた授業づくりを学校として共通理解し、推進していく必要があります。
- ・学年の実態に応じた基礎学力定着のためのシステムを学校毎に確立することが求められます。各種テストや調査をきっかけに、これまでの基礎・基本の取組の検証を行い、全教職員の共通理解のもと、改善案を作成していくことが求められます。

ア 結果の状況



イ 相对度数分布

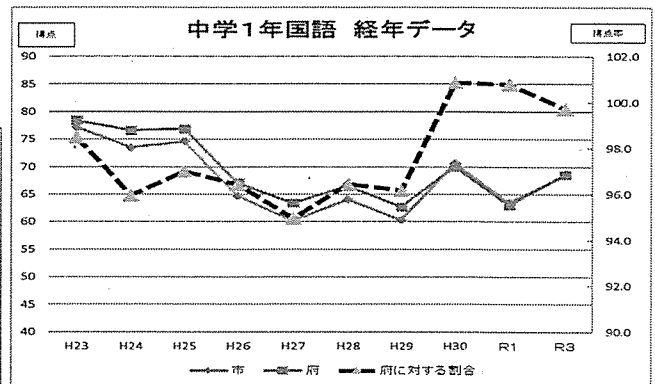
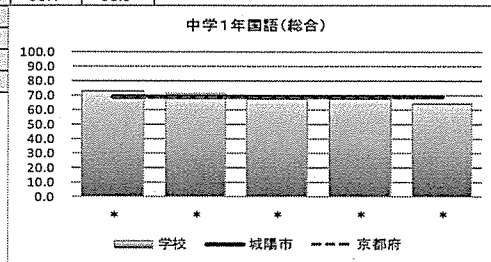


(3) 国語／中学1年

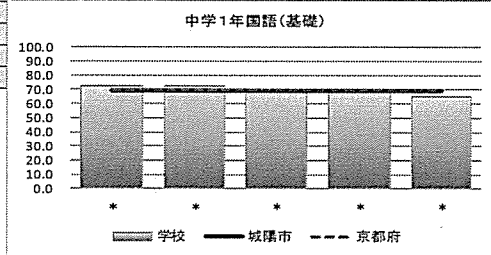
- ・城陽市と府全体の比較では、令和元年度は0.5ポイント上回っていましたが、令和3年度は0.2ポイント下回っています。また、活用、読むこと、知識及び技能においては京都府平均を上回っています。
- ・相対度分布からは、城陽市と府全体を比較するとほぼ同じ水準となっています。また、全問正答の人数が一昨年前より増加しています。授業改善の視点として、自力思考の時間確保と学びの共有化が、適切に図れてきた結果であると考えられます。
- ・すべての子どもが主体的に学習できるよう、授業展開を工夫すると共に、授業中の子ども達の様子を的確に把握する必要があります。

ア 結果の状況

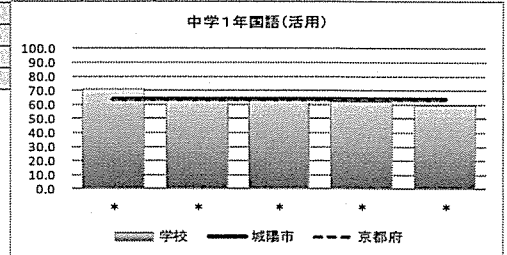
中学1年国語(総合)			
学校名	総合	城陽市	京都府
*	72.4	68.4	68.6
*	71.0		
*	66.9		
*	66.8		
*	64.3		



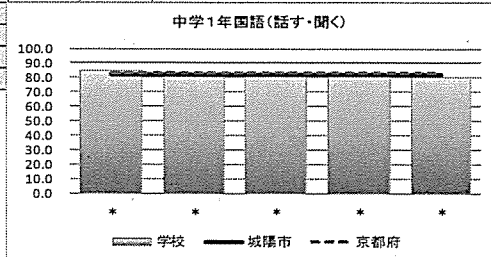
中学1年国語(基礎)			
学校名	基礎	城陽市	京都府
*	72.9	69.5	69.8
*	72.9		
*	68.1		
*	67.8		
*	65.5		



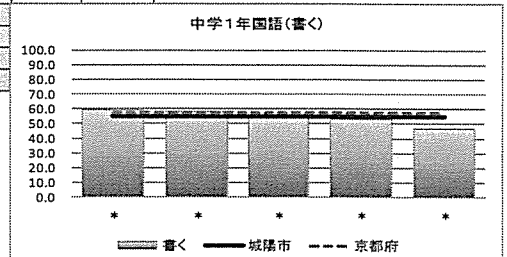
中学1年国語(活用)			
学校名	活用	城陽市	京都府
*	70.7	64.1	63.8
*	63.5		
*	62.5		
*	62.2		
*	59.8		



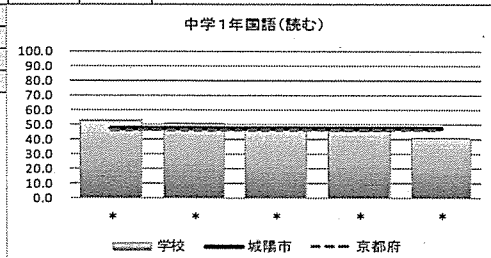
中学1年国語(話す・聞く)			
学校名	話す・聞く	城陽市	京都府
*	84.7	81.8	83.1
*	82.6		
*	81.2		
*	80.9		
*	80.0		



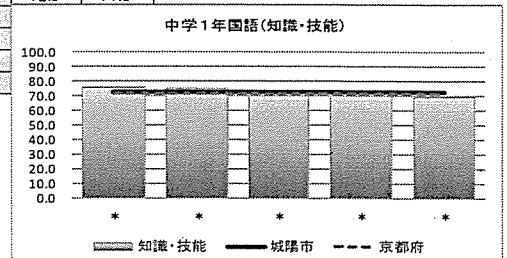
中学1年国語(書く)			
学校名	書く	城陽市	京都府
*	59.4	54.6	57.1
*	57.8		
*	53.9		
*	53.4		
*	46.8		



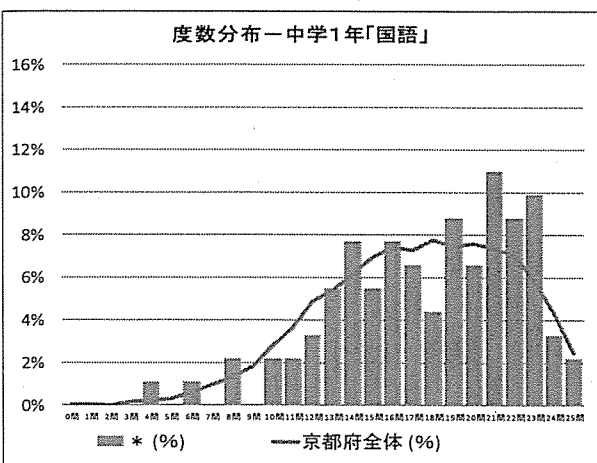
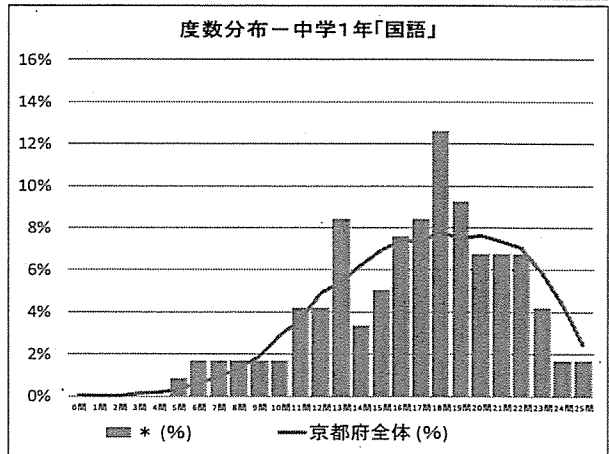
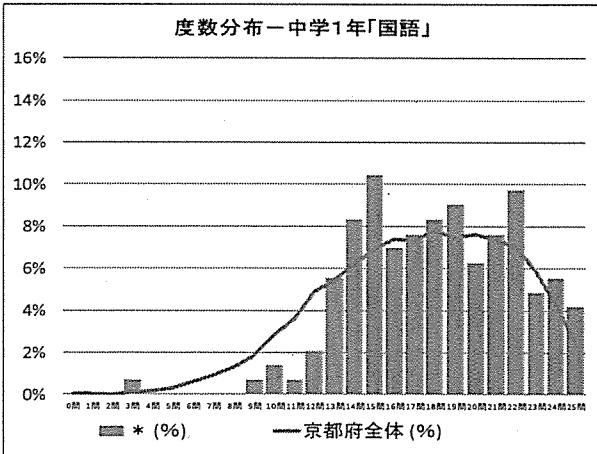
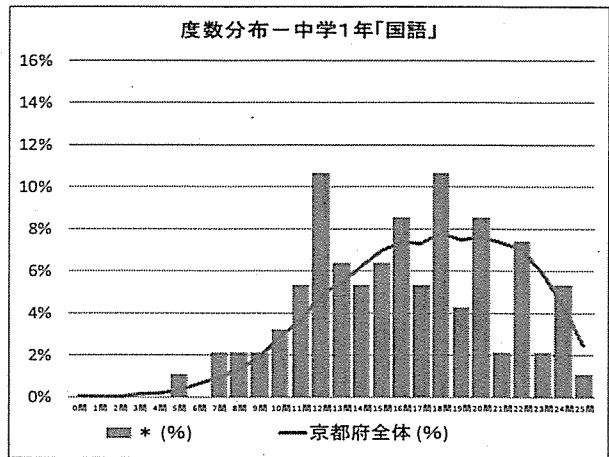
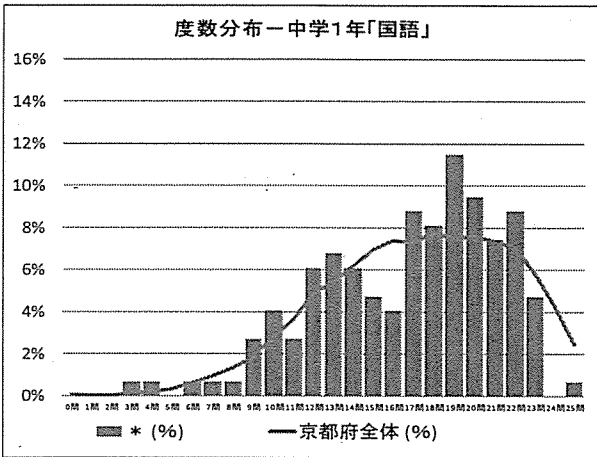
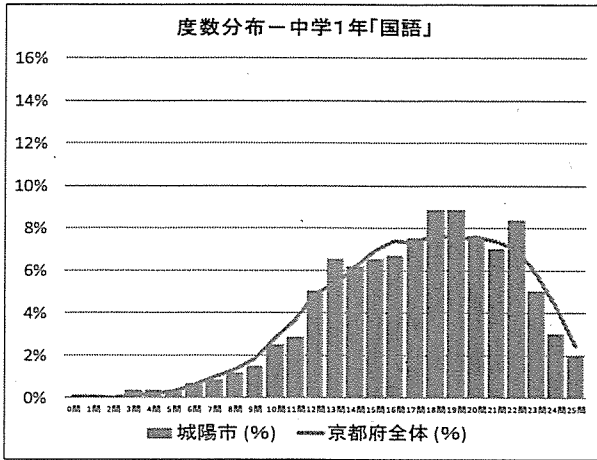
中学1年国語(読む)			
学校名	読む	城陽市	京都府
*	52.3	47.3	46.0
*	50.3		
*	45.9		
*	45.6		
*	40.8		



中学1年国語(知識・技能)			
学校名	知識・技能	城陽市	京都府
*	75.8	72.3	71.8
*	75.5		
*	70.5		
*	70.3		
*	69.4		



イ 相对度数分布

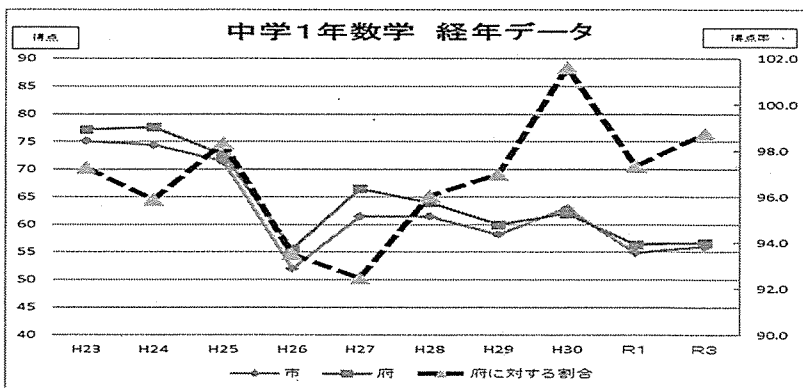
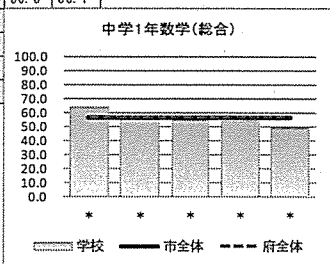


(4) 数学／中学1年

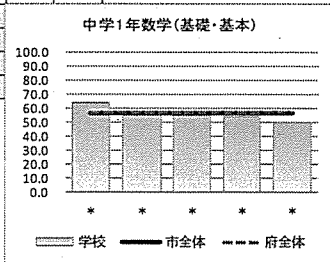
- ・城陽市と府全体を比較すると、令和元年度は1.5ポイント下回っており、令和3年度は0.7ポイント下回っています。近年を見ても城陽市の平均としては上昇傾向にあります。
- ・相対度分布からは、城陽市と府全体の比較では、中間層から中上位層の割合が多くなっています。
- ・学校ごとに特徴があり、どこの層を伸ばしていくのか、低位層の生徒をどのように支援していくのか。そして、高位層の生徒も伸びていけるよう、一人一人の実態や意欲に応じた指導の充実が求められます。

ア 結果の状況

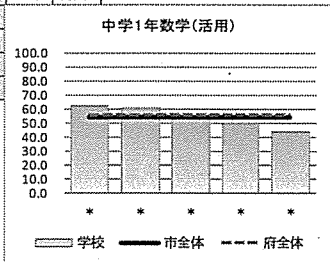
中学1年数学（総合）			
学校名	総合	市全体	府全体
*	63.4	56.0	56.7
*	57.6		
*	54.2		
*	53.7		
*	48.9		



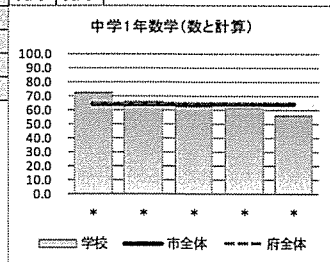
中学1年数学（基礎・基本）			
学校名	基礎・基本	市全体	府全体
*	63.7	56.4	56.9
*	56.9		
*	54.7		
*	54.2		
*	50.3		



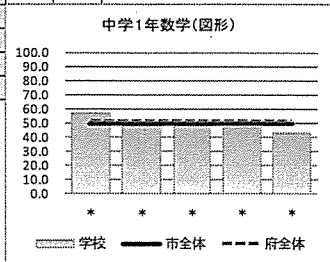
中学1年数学（活用）			
学校名	活用	市全体	府全体
*	62.1	54.3	56.0
*	60.4		
*	54.3		
*	49.9		
*	43.4		



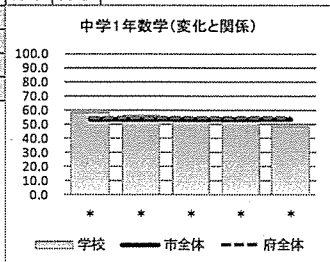
中学1年数学（数と計算）			
学校名	数と計算	市全体	府全体
*	72.2	64.0	64.1
*	66.1		
*	62.2		
*	61.1		
*	56.0		



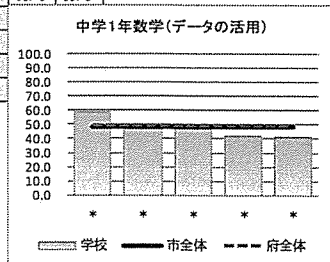
中学1年数学（図形）			
学校名	図形	市全体	府全体
*	56.5	49.6	51.0
*	50.2		
*	48.7		
*	47.1		
*	43.0		



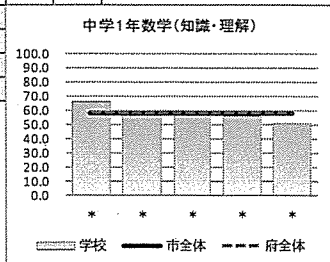
中学1年数学（変化と関係）			
学校名	変化と関係	市全体	府全体
*	58.1	53.5	54.2
*	55.8		
*	52.7		
*	51.8		
*	48.1		



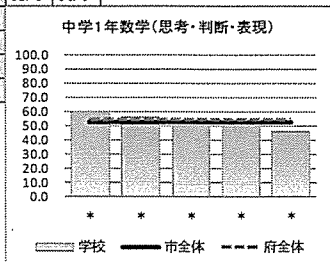
中学1年数学（データの活用）			
学校名	データの活用	市全体	府全体
*	58.8	48.4	49.3
*	50.0		
*	48.2		
*	42.1		
*	40.8		



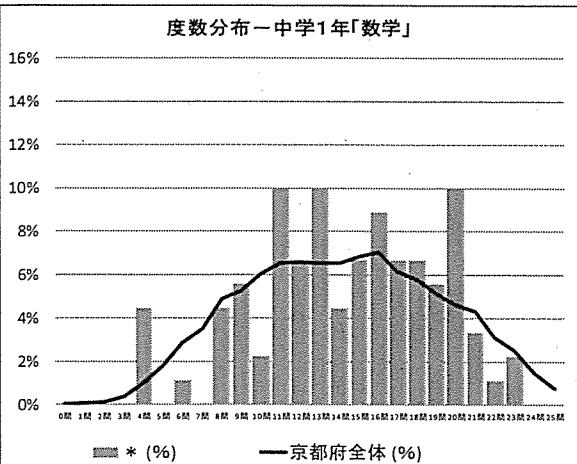
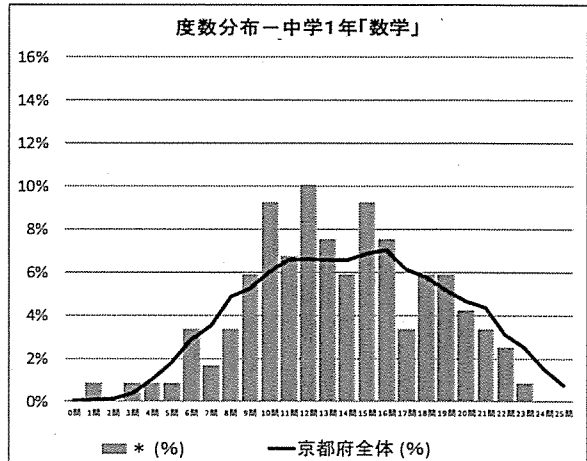
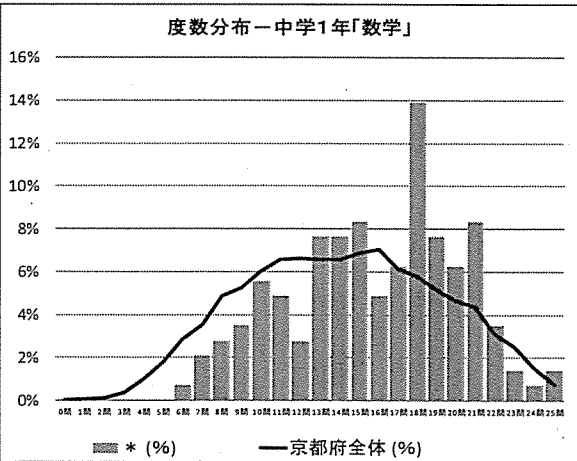
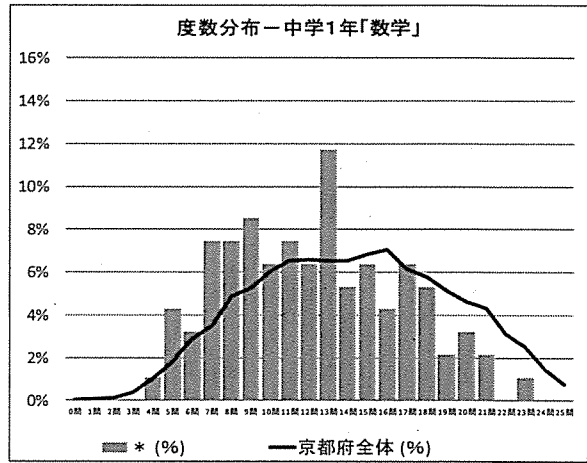
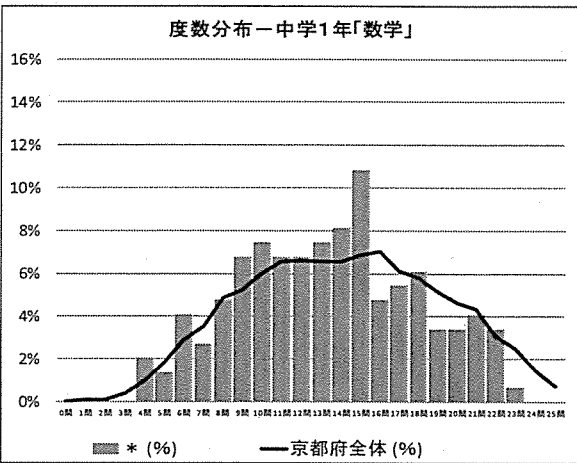
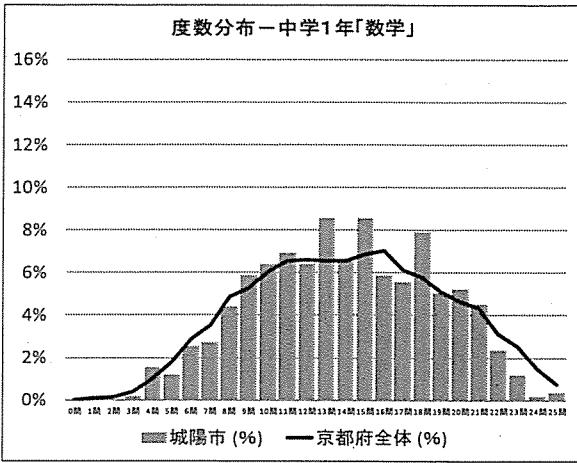
中学1年数学（知識・理解）			
学校名	知識・理解	市全体	府全体
*	65.6	58.0	58.1
*	58.8		
*	56.7		
*	56.0		
*	50.6		



中学1年数学（思考・判断・表現）			
学校名	思考・判断・表現	市全体	府全体
*	59.5	52.4	54.1
*	55.7		
*	49.8		
*	49.6		
*	46.0		

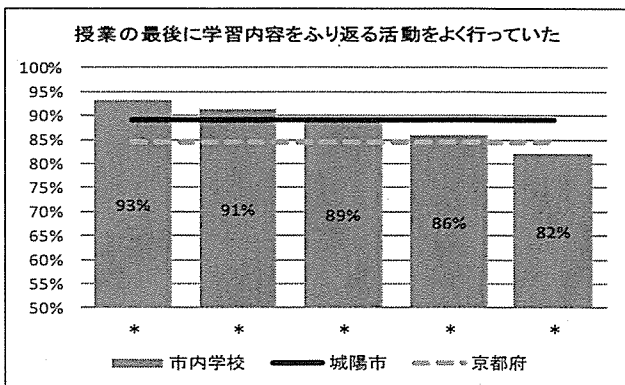
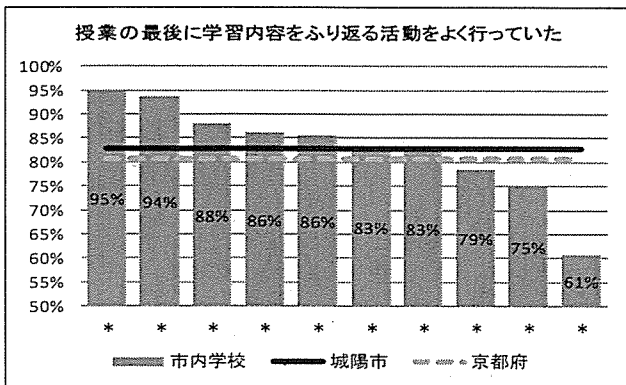
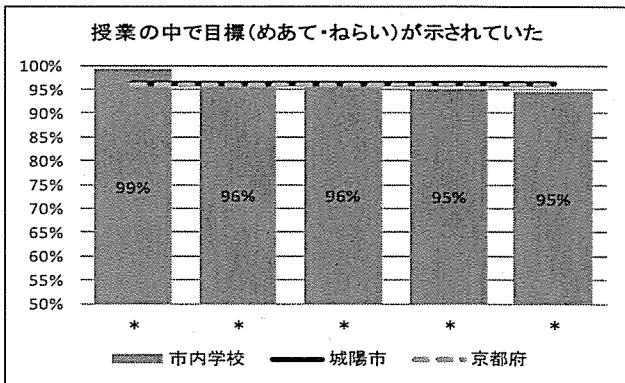
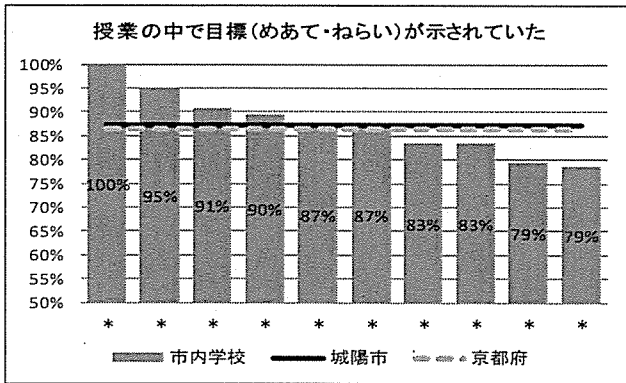
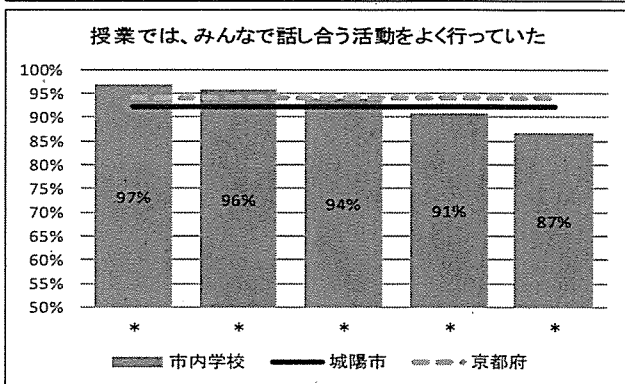
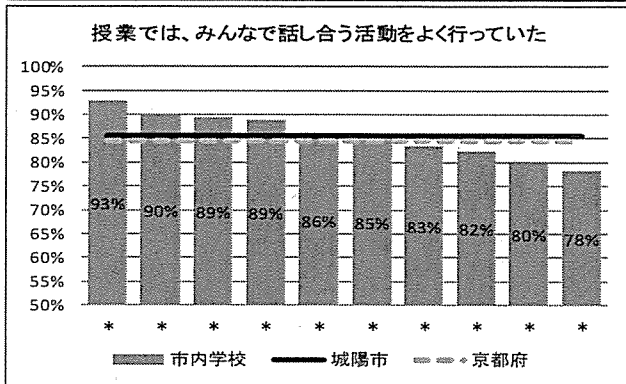
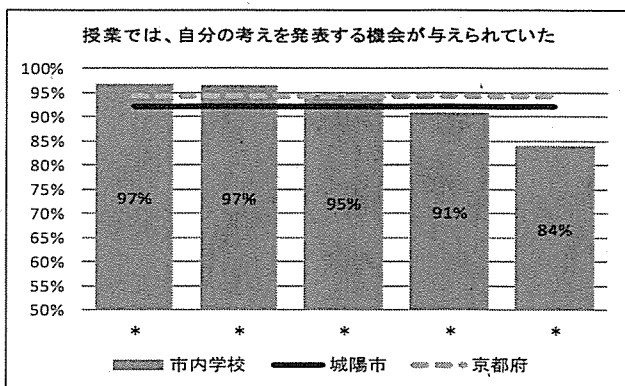
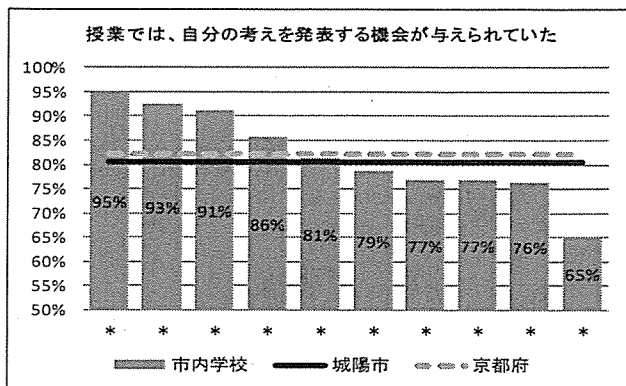


イ 相対度数分布



5 質問紙の調査結果（小学4年・中学1年）

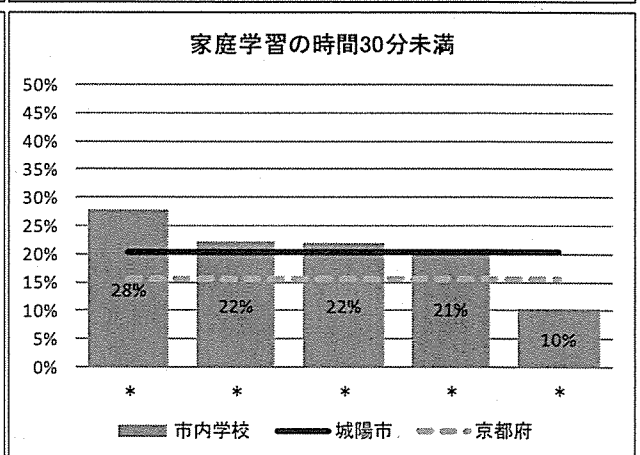
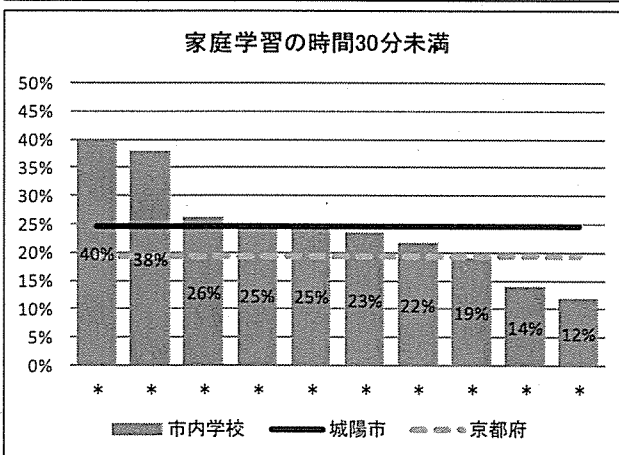
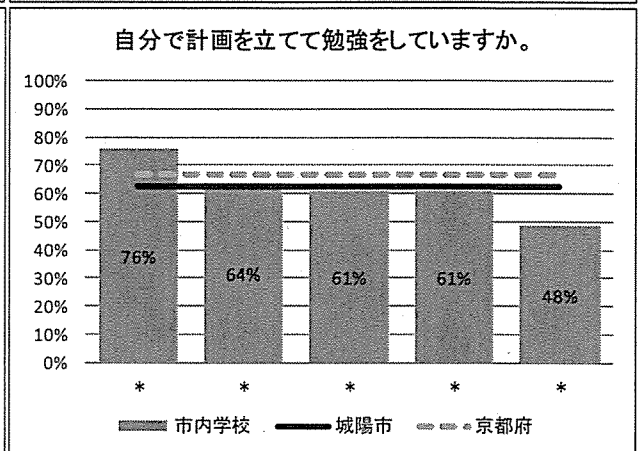
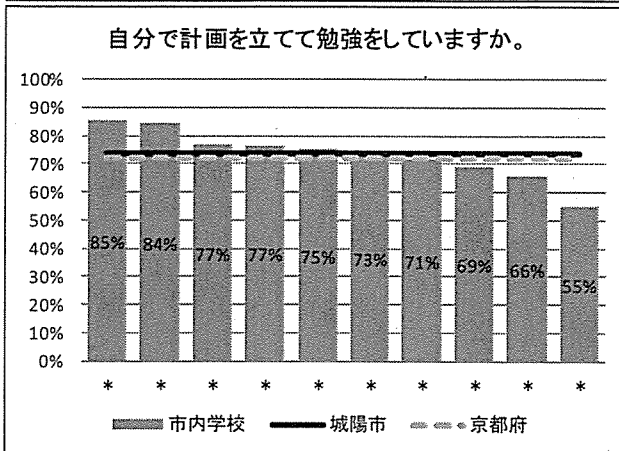
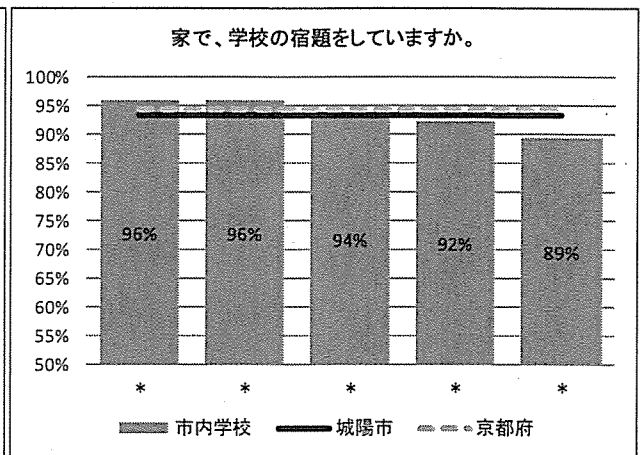
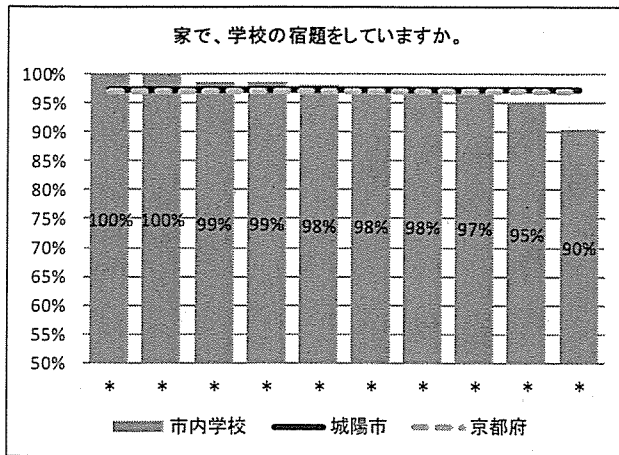
(1) 授業について



・上記の項目について、城陽市は京都府の平均に対してほぼ同等、もしくは上回っています。「山城授業スタンダード」を活用した授業改善の視点や、学校毎に焦点化された取組を進める中で、充実してきていることが覗えます。

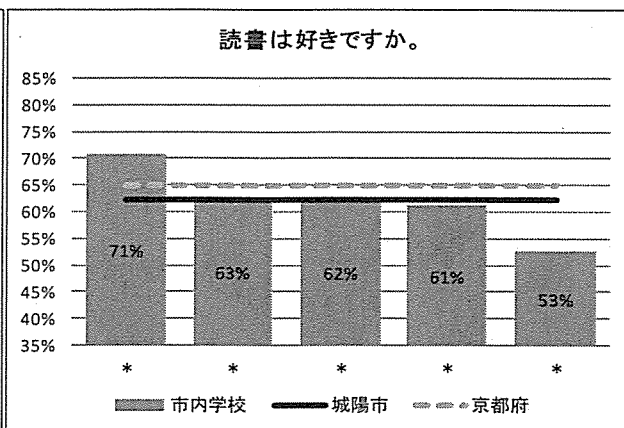
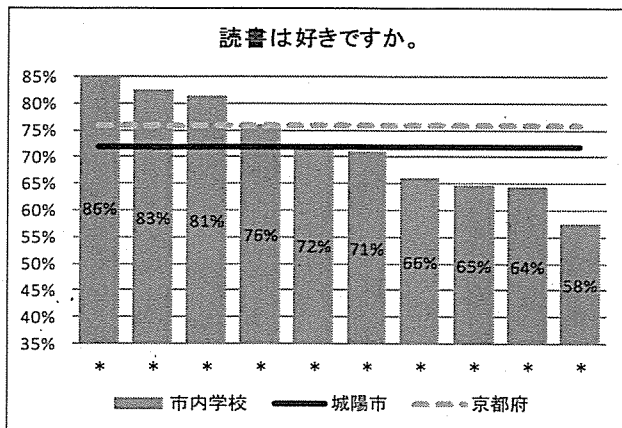
・また子ども達の学習活動が形式的にならないようにするため、子どもの「振り返り」や「適応問題」から、すべての子どもの「めあて」の達成率を把握することが求められます。

(2) 家庭学習について



- ・学校の宿題を家庭で「している」または「どちらかといえばしている」と回答した割合は、小学4年で京都府平均、城陽市平均ともに97%、中学1年で京都府平均94%、城陽市平均93%であり、京都府平均とほぼ同等です。
- ・平日（月～金曜日）の家庭学習の時間については、「30分未満」または「全くしない」と回答した割合は、小学4年で京都府平均19%、城陽市平均25%、中学1年で京都府平均16%、城陽市平均20%となっています。全体的にみれば城陽市の子どもたちは家庭学習の時間が短くなっています。
- ・よりよい家庭学習の充実のために、授業と家庭学習をリンクさせ、学習意欲を向上させる取組を学校として構築することが求められています。

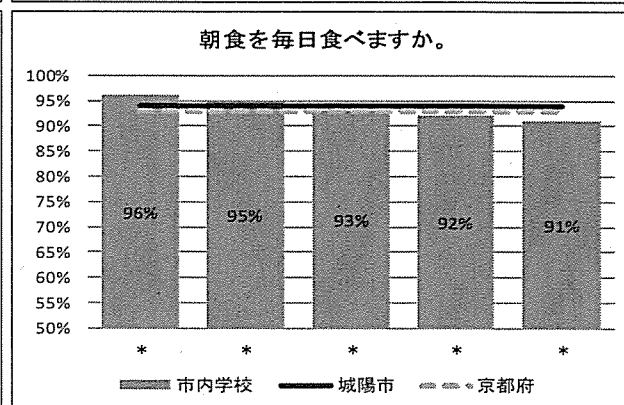
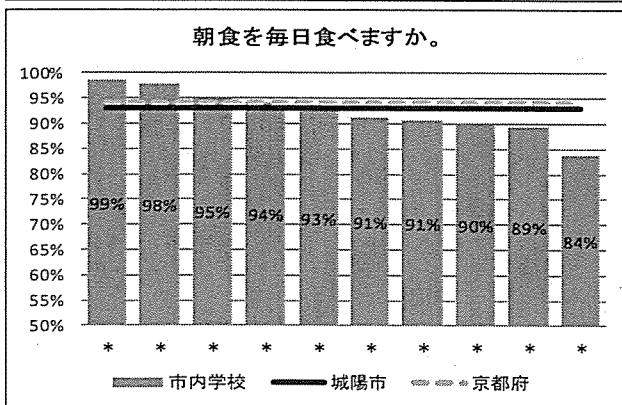
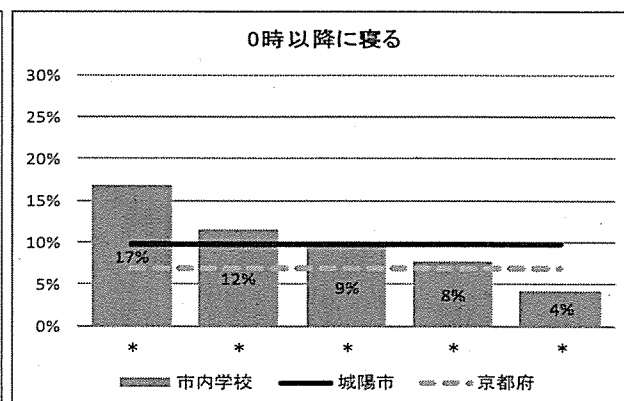
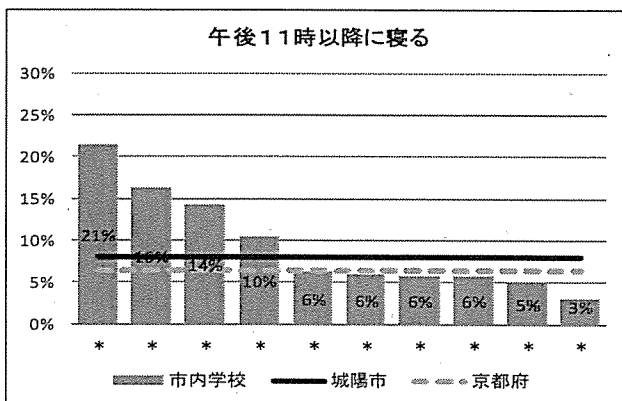
(3) 読書について



・「読書は好きですか？」の問いに対し、小学4年で京都府平均76%、城陽市平均72%であり、中学1年で京都府平均65%、城陽市平均62%であり、どちらも京都府平均を下回っています。

・読書の取組については各校で工夫されて実施されていますが、国語科の学習において並行読書をより充実することにより、読書への興味・関心が向上します。学校の図書室や市立図書館を積極的に意図的・計画的に利用していくことが大切です。

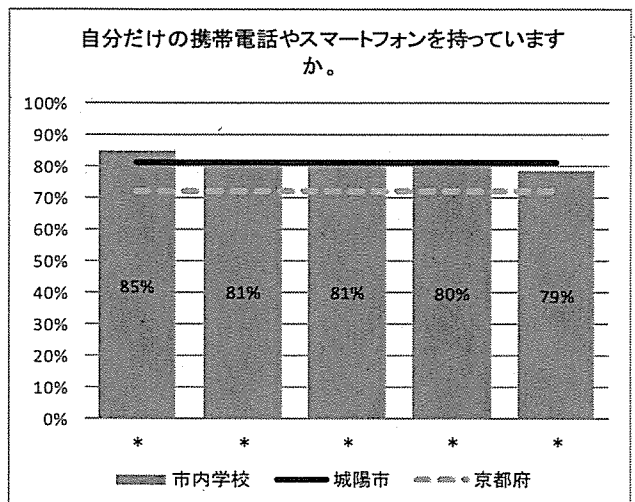
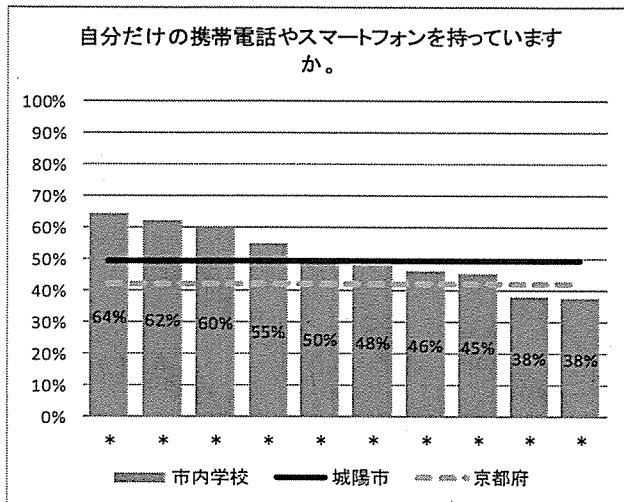
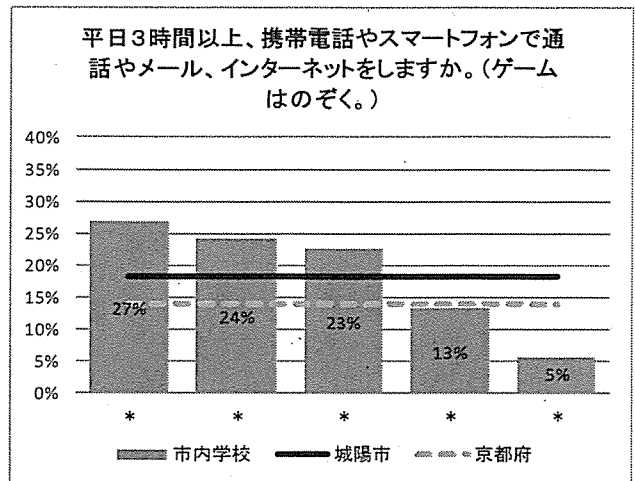
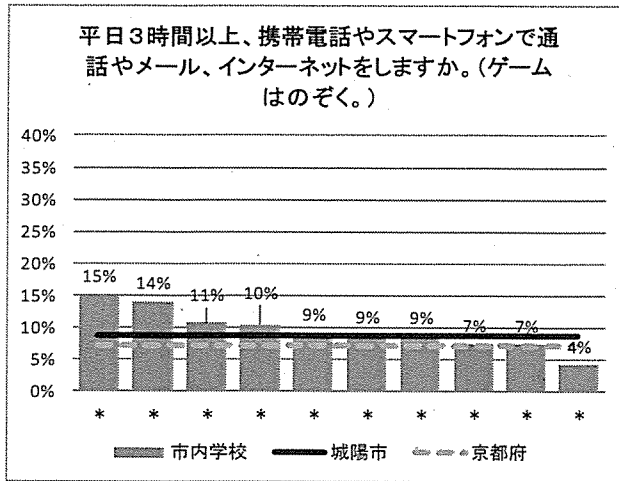
(4) 生活習慣等について



・「朝食を毎日食べますか？」の問いに対し、小学4年、中学1年どちらも城陽市は京都府平均とほぼ同等ですが、学校間の差が大きいことが見受けられます。また、就寝時刻が遅い傾向にあることにも課題があります。

・家庭学習の取組を進める中で、基本的な生活習慣の確立についても指導をすると共に、家庭との連携を密に取る必要があります。

(5) 携帯電話・スマートフォンについて



・本年度の所持率が小学4年で京都府平均42%、城陽市平均50%であり、中学1年で京都府平均72%、城陽市平均81%と、どちらも京都府平均を上回っています。また、「1日あたり(平日)3時間以上は使用している」と回答した生徒の割合は小学4年で京都府平均7%、城陽市平均9%であり、中学1年で京都府平均14%、城陽市平均18%とどちらも京都府平均を上回っています。

・携帯電話やスマートフォンの使用実態をつかみ、使用時間やルール守る大切さについて、また、情報モラルの指導についても各校で工夫して実施されていますが、基本的な生活習慣の確立について子ども自身が考えるのと同時に、保護者に届く啓発の工夫が求められます。